

平成 28 年度食品の安全・安心に関するアンケート結果

1 実施概要

実施方法	広島県ホームページ	広島県職員ポータル
回答期間	平成 28 年 10 月 25 日～11 月 30 日	平成 28 年 10 月 25 日～11 月 30 日
回答対象	広島県内在住者	広島県職員（約 4,500 名）
回答数	432 名	1,621 名
回答率	—	約 36%

*設問内容は別紙

2 回答者の属性について

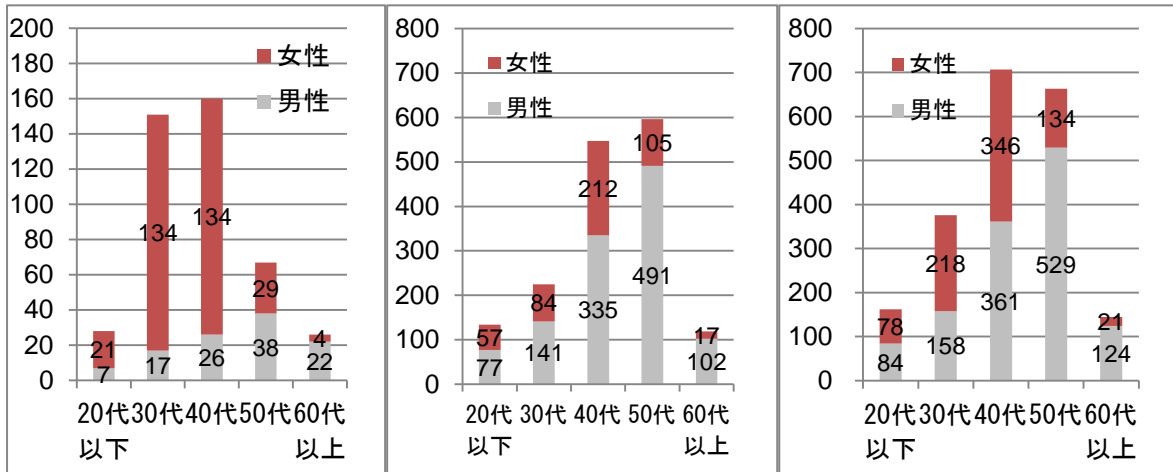
○回答数 2,053 名（男性：1,256 名 女性 797 名）

○年齢構成

インターネット回答(n=432)

広島県職員回答(n=1,621)

全体(n=2,053)

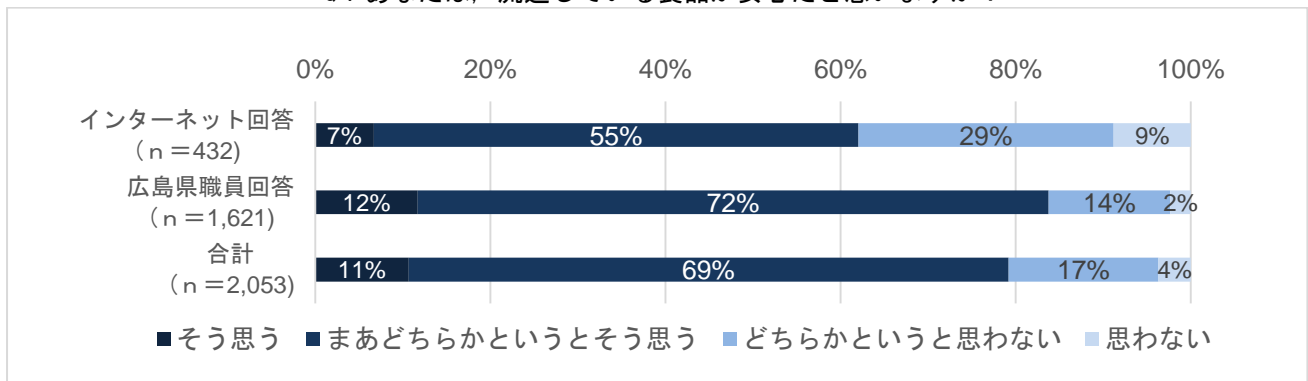


3 集計結果

(1) 流通している食品への安心感に関する設問について

○流通している食品に対して、インターネット回答の 62%，広島県職員の 84%，全体の 80%が安心だと「思う」「どちらかというと思う」と回答しており、インターネット回答の安心感が低かった。

Q：あなたは、流通している食品が安心だと思いますか？

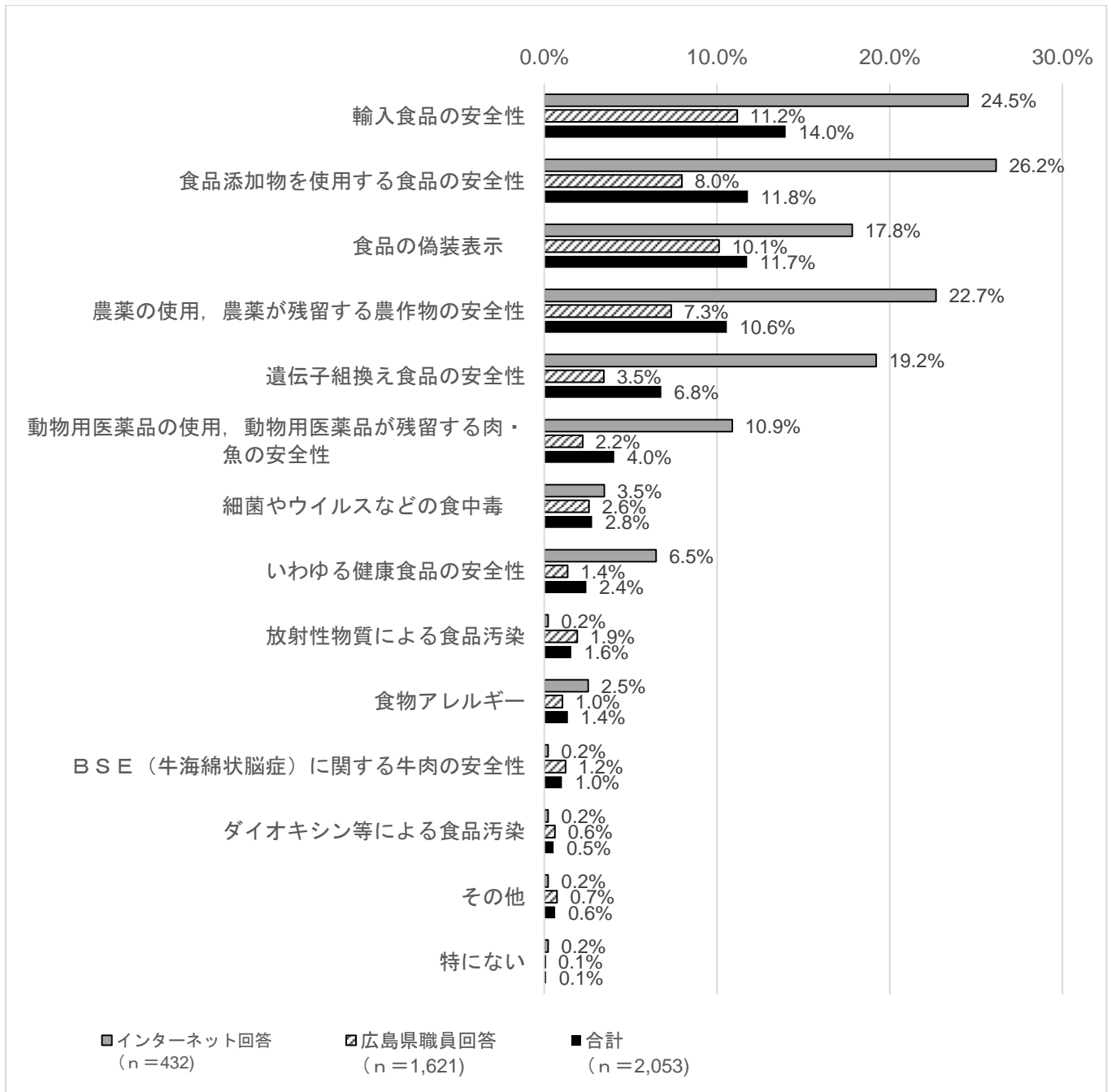


※ラウンドにより合計が一致しない場合があります。(以下同)

(2) 食品に関する不安な項目に関する設問について

流通している食品に対して、安心だと「どちらかというと思わない」「思わない」との回答者に対し、不安に思う項目を質問した。「輸入食品の安全性」と回答した割合は全体の14%（インターネット回答の24.5%、広島県職員の11.2%）で最も高く、次いで「食品添加物を使用する食品の安全性」が全体の11.8%（インターネット回答の26.2%、広島県職員の8%）、「食品の偽装表示」が全体の11.7%（インターネット回答の17.8%、広島県職員の10.1%）の順となった。

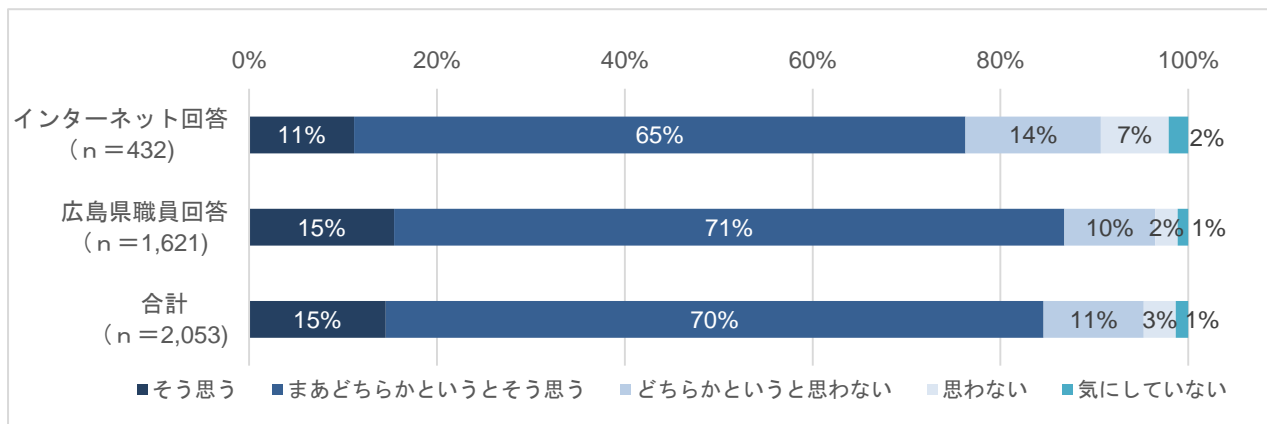
Q: 「どちらかというと思わない」「思わない」と答えた方にお尋ねします。あなたは、食品についてどのようなことに不安がありますか。主なものを3つ以内で選んでください。



(3) 流通している食品の表示への信用に関する設問について

○流通している食品の表示に対して、インターネット回答の76%、広島県職員の86%、全体の85%が信用していると「思う」「どちらかというと思う」と回答しており、インターネットでの信用度が低かった。

Q：あなたは、流通している食品の表示を信用していますか？



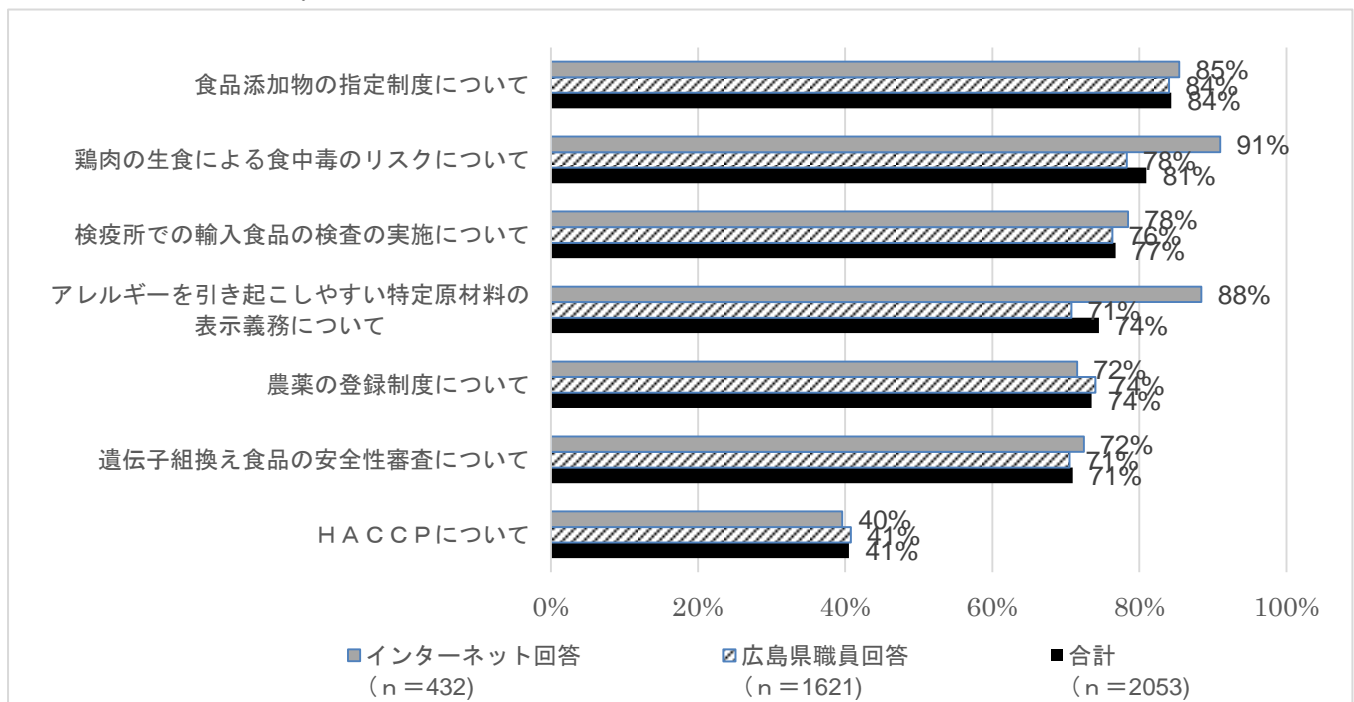
(4) 食品の安全に関わる施策等の認知度に関する設問

○食品安全に関わる施策について「知っている」「知らなかった」の択一式アンケートを実施し、「知っていた」との回答率を集計した。

○最も認知度が高かったのは、「食品添加物は国が安全性を認めたもののみ使用できることを知っている」ことを問うもので、全体の84%（インターネット回答の85%、広島県職員の84%）の結果となった。

○最も認知度が低かったのは、「HACCP（ハサップ）という衛生管理手法を知っている」ことを問うもので、全体の41%（インターネット回答の41%、広島県職員の41%）の結果となった。

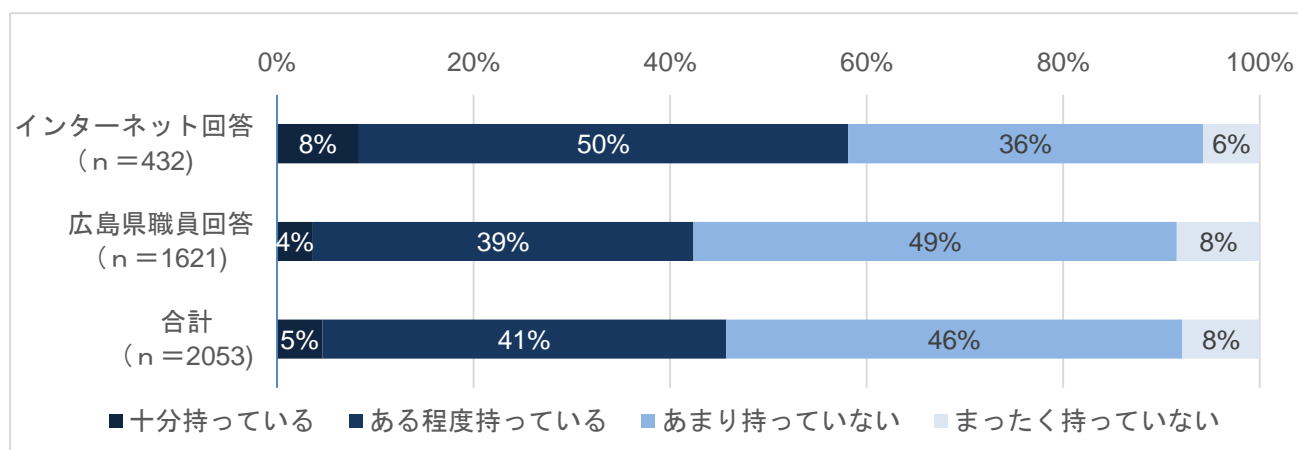
Q：食品の安全に関する施策等の認知度に関する設問の結果



(5) 食品の安全に関する正しい知識の保有に関する設問について

○食品の安全に関する正しい知識（健康に悪影響を与えない食品の選択方法・調理方法等）を持っているかについてインターネット回答の 58%，広島県職員の 43%，全体の 46%が「十分持っている」「ある程度持っている」と回答しており，インターネット回答で多くなった。

Q：あなたは，食品の安全に関する正しい知識(健康に悪影響を与えない食品の選択方法・調理方法等)をお持ちですか？(選択式)



4 参考 食品について不安に思う各項目の理由について（自由回答：抜粋）

◆ 回答内容は，同意見が複数回答あったものを中心に抜粋し，（ ）内に，広島県職員については所属局，性別，年代，インターネット回答については一般，性別，年代の順に記した。

①「輸入食品」に関する意見・要望

○中国からの輸入食品は信用できないので買わない。現在 TPP が国会で議論されているが今後、輸入検査の簡略化が懸念されます。(一般，男性，60代)

○他国からの日本向けの輸出品の農薬や添加物の規制が甘いと聞いている。詳細がわからないぶん不安で，とりあえず国産を意識して購入していますが，国内製造とあるものも原料は輸入品だったりして，選択しようにもできない。(総務局，女性，40代)

○加工食品には産地，加工地が書いてないものが多い。(一般，女性，40代)

②「食品添加物」に関する意見・要望

○食品添加物や放射性物質について、将来的に安全性が確認されているかどうか分からないから。(一般，女性，40代)

○様々な食品添加物を、体の中で MIX した時、何も影響ないといえる添加物を使用していると言い切れるか (一般，男性，60代)

○食品添加物は EU では認められていないようなものが多く流通していること。(一般，女性，40代)

○加工品に限っては，添加物が入っていないものを探す方が難しい。国の基準ではなく，消費者が知識を持って知った上で経済的や健康に対する価値観で購入を考えていくしかない。(一般，女性，40代)

③「偽装表示・表示」に関する意見・要望

- 消費者は記載されていること以外をなかなか知ることができない。表示されていることを信じるならばという前提で買い物をしている。現実にはこの表示に疑わしいことが耳にされるので、表示についての不安が一番大きい。(一般, 女性, 50代)
- 産地偽装や廃棄処分が再利用されていたり、ニュースに出てこないだけでもっとあると思います。(一般, 女性, 30代)
- 食品の偽装が多く信頼できない。賞味期限・消費期限・産地(特に輸入品)等ラベルを張りかえれば分からない。(土木建築局, 男性, 60代)

④「残留農薬」に関する意見・要望

- 農薬は、使用している者が、規定通りの使用方法(対応作物, 使用量, 頻度)をしているのか。残留農薬料の全品目調査をしているのか。(一般, 男性, 60代)
- 日本は、先進国の中でも、農薬, 食品添加物の使用量はトップクラスである。農薬に関しては、使用している農薬の安全性は勿論の事、自然の生態系にまで害を及ぼしている。現時点で農薬の安全性について国や自治体が示している資料では到底納得できない。(一般, 女性, 40代)

⑤「遺伝子組換え食品」に関する意見・要望

- 農薬も添加物も遺伝子組み換えも国によって認可されたものであることは承知していますが、他国では禁止されているものが日本では認められていたり、長期摂取・複合摂取の影響は充分把握されていないため。(一般, 女性, 40代)
- 遺伝子組換え食品について加工食品等の表示義務があいまい。(土木建築局, 女性, 30代)
- 遺伝子組み換え食品の安全に関する説明が少ない。(一般, 男性, 60代)

⑥「動物用医薬品」に関する意見・要望

- 牛肉の成長ホルモン, 魚への抗生物質の多量投与等, 一部で問題提起されているが, 実情がはっきりしないものがある。(環境県民局, 男性, 30代)
- 成長ホルモンや、抗生物質、動物に必要な薬を使用するから。(一般, 女性, 50代)

⑦「食中毒」に関する意見・要望

- 近年 EHEC(腸管出血性大腸菌)の事件が多く発生しており, 加工された食肉製品の安全性が低下しているように思われる。(健康福祉局, 男性, 60代)
- 肉などの食中毒が怖い。(一般, 女性, 40代)

⑧「健康食品」に関する意見・要望

- 健康食品は, 値段の割に製品管理がされているのか不安を感じる。(健康福祉局, 男性, 60代)
- 健康食品は食べている本人の対照がないので効果検討ができない上, 個人差があるとして科学性に欠ける。(一般, 男性, 60代)

○特保に使用されている甘味料等がすでに信憑性のない安全性に疑問の原料使用。健康成分が入っていてもそれ以外の添加物が多い。(一般, 女性, 30代)

⑨「放射能汚染」に関する意見・要望

○放射能汚染した食品が検査をすり抜けて流通している現状がある。放射能に対して感受性の高い子供達の食べる学校給食に提供される食品の放射能検査などの徹底がなされていない。(一般, 女性, 40代)

○放射性物質：原発の影響は必ずあると思っている。現在も汚染水は海に流れているのではないか。風評被害は良くないが真実はどうなのか知りたい。(健康福祉局, 女性, 40代)

○放射能に関しては、未だに福島第一原発から大量の放射性物質が放出されているにも関わらず、キッチンとしたチェックが行われておらず、不安に感じます。(一般, 男性, 40代)

⑩その他の意見・要望

※ 安全に関する基準や監視体制、事業者の自主管理体制等への意見

○そもそも国の農薬の基準や、食品の安全性の基準自体に疑問がある。(一般, 男性, 30代)

○食品の検査は全量ではなく抽出検査と思われ安全性が十分に確保されているとは思わない。(農林水産局, 男性, 60代)

○国産牛の子牛に対する BSE のチェックも緩すぎだと思う。エサに何を食べさせているかによっても、発祥の危険性がある。(一般, 女性, 40代)

○BSE の原因がわかっていない点が怖いです。全頭検査もしなくなったので運がわるかったで終わりそう。(一般, 女性, 30代)

○特に安価な食品の場合、生産者は製品として低コストで生産しようとするため、食品としての安全性は軽視されると考えられる。(地域政策局, 男性, 40代)